



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2022年12月4日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

「たかがコーヒーをいれていた青年」じゃない

4日(日)=1、3面

迫る



熊本市内に住む深迫祥子さん＝写真＝は夫の祐一さんと2020年5月、自宅敷地内にカフェを開きました。「バリスタ」だった息子の夢を引き継いだのです。

コーヒー店で修業していた忍さんは3年前の事故で、29歳という若さでこの世を去りました。祥子さんは息子を突然奪われた悲しみだけではなく、2次被害にも苦しめられました。損害賠

償を求めた民事裁判では相手側の弁護士から、バリスタの収入は一般的に高くないはずとの主張をされたこともありました。それは「たかがコーヒーをいれていた青年」と言われたようで、心がえぐられました。

祥子さんは今、犯罪や事故の被害者や遺族の心に寄り添う活動に取り組んでいます。夫婦の心境に迫ります。



救済新法案のポイントは

7日(水)=2面

世界平和統一家庭連合（旧統一教会）の問題を巡り、被害者救済に向けた新法案が6日にも衆院本会議で審議入りします。靈感を使って不安をあおる寄付勧誘行為を禁止するなど

の内容が盛り込まれましたが、被害者を支援してきた弁護士らからは「内容が不十分で実効性に乏しい」との指摘もあります。どういうケースで救済されるのか解説します。



旧統一教会の養子縁組の問題について、オンラインで発言する元2世信者＝都内で2022年11月16日撮影



羽生結弦さん アイスショー

6日(火) 特集面

フィギュアスケートでプロに転向した羽生結弦さん（27）の単独アイスショー「プロローグ」が2、3、5日に青森県八戸市で開かれます。11月の横浜公演に続く第2弾で、今回も羽

生さん自ら考案した演技構成で展開されます。2014年ソチ、18年平昌オリンピックを連覇した羽生さんが表現するショーの魅力、羽生さんの思いを特集面で紹介します。

特集ワイド

外国人「職質」問題 6日(火)=夕刊特集ワイド



警察の職務質問に関する調査結果を発表する東京弁護士会外国人の権利に関する委員会の委員ら＝2022年9月9日撮影

警察官が人種や国籍などに基づいた不適切・不用意な職務質問を行う行為（レーシャルプロファイリング）が世界中で問題になっていますが、日本も例外ではありません。米国大使館がツイッターで「（それと）疑われる

事例の報告があった」と日本に暮らす米国人に警告を発したほか、訴訟になったケースもあります。実際に職質をかけられた外国人、弁護士、警察庁などに取材し、職質問題の深層を探りました。

竹橋の窓辺から

編集後記



毎日新聞社は1919年から、国内最大のトーナメント「毎日テニス選手権」を主催し、テニスの裾野拡大に尽力してきました。一方で、低迷する日本テニス界の現状に危機感を持つ世界ランク50位以内を経験した女子テニス選手たちが一般社団法人 Japan Women's Tennis Top50 Club（JWTT50）を創設し、ジュニア支援に乗り出したのを受け、両者が手を組んだイベントを今月18日に開催します。ぜひご参加ください。（千代崎聖史）

